

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年12月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677700173
法人名	有限会社 三木
事業所名	グループホーム おおきな木
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占川南3611番地 (電話) 0994-24-2001
自己評価作成日	令和5年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は本土最南端の南大隅町にあります。町の中心部に位置し、利便性が高く、地域の方々とも交流のしやすい場所にあります。近隣には、町の社会福祉協議会があり、情報共有のしやすい環境にあります。また、避難場所としても活用させていただいております。かかりつけ医院（津崎医院）まで車で2分と近く、24時間緊急時は訪問診療も可能であります。地域の総合病院である、肝属郡医師会立病院まで、8分程度で緊急搬送が可能であります。ホームの玄関には「おおきな楠の木」があり、利用者や地域の方々の憩いの場所となっております。また、移動販売業者様(Aコープ、パン工房びーたーぱん)のご協力もあり、週2回程度の買い物も可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、協力医療機関と24時間の医療連携体制を築いている。適切な医療の支援を受ける他、協力医療機関において終末期の選択肢の1つとして家族の意向に沿った看取り介護があり、家族が安心して過ごせる環境である。
- ・当事業所は、シンボルツリーの大きな木が、地域住民と利用者のふれあいの場になっている。地域の移動販売車の立ち寄りでの楽しい買い物をしたり、祭りの神輿が来訪してくれたり、住民からの野菜の差入れがある等、地域との交流を大切にしている。
- ・職員は、利用者が家族との面会や受診・外食等での交流で精神的な安定を図れるよう支援し、事業所からも写真を添えた近況報告を毎月送付して家族との関係が途切れないように取り組んでいる。
- ・管理者は、研修や会議等を活用して職員のレベルアップを図り、サービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念をもとに、職員全員で介護方針や職員の心構えを基本として実施している。	理念はホールに掲示し、利用者と一緒に毎朝唱和するとともに、重要事項説明書にも掲載している。職員会議時に、理念に沿ったケアを実践できているか振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類へ引き下げになり、地域の祇園祭などへの参加を行った。	町内会に加入し会報等で行事を把握しており、祇園祭では神輿の来訪がある。地域の移動販売車からの買い物や玄関前での外気浴時に住民との挨拶、住民からの野菜の差入れ等で日常的な交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	新型コロナウイルスが5類へ引き下げになっているが、小中校生の福祉体験学習の受け入れができていない状況。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス5類への引き下げ後、運営推進会議を開催している。（2類時は書面での開催）	2ヶ月に1回の運営推進会議を対面で実施し、事業所の報告と意見交換を行っている。クラスター発生後に各委員から「体調不良時は面会を控える」「5類になったことを考慮した対応をする」との意見を、サービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	新型コロナウイルスが5類へ引き下げ後は対面での相談を実施している。（2類時は電話での対応を行っていた。）	町の担当者とは運営推進会議時の意見交換や電話及び出向いての報告・相談で連携を図っている。生活保護担当者とは来訪時の意見交換等で協力関係を築いている。町主催の研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化のための対策をする委員会を3か月に1回実施しており、対応が適切であるかの評価に取り組んでいる。	指針を作成しており、委員会を3ヶ月に1回、研修会は年2回実施している。スピーチロックは気付いた時に管理者から注意を促し、離床センサーは、家族の了承を得て拘束にならない範囲で使用している。日中の玄関の施錠はせず、外に出ていく利用者には散歩に職員が同行し、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための勉強会を年に2回以上実施している。職員会議等で意見交換や話し合いをすることで虐待防止の徹底につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が中心となり、職員研修を実施して理解する努力をしている。外部研修等は感染状況等を踏まえ参加していく予定。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に施設生活での不安のないように十分に説明しているが、ご利用者やご家族からの不安や疑問点がある際は、その都度説明を行い納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、施設からご家族あてに近況報告書を送付しお知らせしている。ご家族からは、面会時などご意見やご要望を伺っている。	利用者には日常会話の中で要望を聞き、移動販売車での購入や誕生日のメニューで対応している。家族には、面会等で要望を聞いており、ガラス越し面会を玄関の対面面会に変更したり、外出・外泊も要望に沿って対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の業務推進会議や随時相談を行い、決定事項を職員会議や朝礼時に報告し、運営に反映させている。	管理者は、2ヶ月に1回の職員会議や申し送り簿を活用して職員の意見を聞く機会を設けており、職員の理解を得て午前の入浴支援を午後に変更にしている。年1回の個別面談を施設長が実施し、個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	不定期であるが、面談を開催しており、それぞれの職員の要望を話す場を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の業務推進会議で意見を聞いたり、管理者とは密に連絡を取り合い、ケアの実際を把握している。勉強会は管理者にて開催している。外部研修は感染症の状況を見て参加予定。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新型コロナウイルスが5類へ引き下げになってはいるが、感染力の強さは変わりはない。感染対策を行い、交流する機会を設けていく予定。（当施設でも9～10月にクラスター発生している。）</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの環境に慣れて頂けるように、声掛けや見守りを行っている。要望などに耳を傾け、スタッフ間で連携を取り対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込を受けてから入所されるまで、少なくとも3回程度も面談や電話でのやり取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所してからどのように過ごしたのかを的確に理解し、提供できるサービスについて説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が自然に自分でペースで過ごす事のできる環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告をご家族に送付し、状況の報告と相談を行っている。必要に応じて電話での連絡を取り合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人との面会は、玄関先でマスクをしておきの面会を実行している。	家族・知人と玄関での対面面会や事業所から毎月家族に写真を添付して近況報告を行ない、家族・知人との関係が途切れないように努めている。家族と馴染みの美容院に出掛ける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	曜日ごとに活動の内容を決め、午前中に園芸、創作、歌などのレクに取り組み、楽しみを持って生活が送れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の生活についても、本人家族と連絡を取り合い、施設としてできる範囲での支援を行っている。（長期入院退所後の生活の相談など）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者と日々関わりあう中で、望む暮らしの把握ができるように努めている。ご利用者の意向や変化をスタッフ間で共有するように努めている。	日常会話で本人の意向を把握できるように努めている。困難な場合は、家族からの情報を参考に、本人の表情・行動で本人の思いをくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りや生活歴などから、本人の生活を理解するように努め、できる範囲で本人の生活リズムに合わせて支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる事は見守りにて対応している。できない事は共に行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	処遇会議を開催して現状を話し合い、より良いサービスが提供できるように介護計画を作成している。	本人や家族から意見を聞き、職員からも意見を聞き、担当者会議で介護計画を作成している。結果を家族へ報告し意見を聞いている。モニタリングは6ヶ月ごとに、見直しも半年に1回行い、変更時は随時実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌を記録して、職員間で情報を共有している。申し送りも活用して、状態が変化したら施設介護計画の変更を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のニーズに対応するため、職員間で連携をとり体制作りに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や地域住民の方々、役場の職員の協力をもらいながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の診察を受け、ご家族とも連携を取りながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、家族の協力も得て対応している。協力医療機関とは状態悪化時や看取り期の往診を含め24時間の医療連携体制が築かれている。家族対応時は、情報提供書を持参してもらっており、職員対応時は家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>申し送り等で日々の情報を共有し、定期的に訪問していただく訪問看護師とも連携を取り、ご利用者の状態に応じて、病院受診ができる体制を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は情報提供書で病院との連携を取っている。退院時は状態確認や看護サマリーにて連携を取っており、スタッフ間で共有できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>年1回の看取りケアの勉強会の開催を行っている。また、ご利用者の状態に応じて、看取りケアについての説明をご家族へ行うようにしている。（看取りに関する指針）看取りケア開催時は主治医からの説明を必ず行うようにしている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について説明している。介護度等の状況に応じて段階的に特別養護老人ホーム等の選択肢について説明している。状況変化時に医師から家族に説明後、家族の意向を確認し、意向に沿って支援に取り組んでいる。看取り介護希望の場合は同意書をもっている。看取り介護事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>普通救命講習の救命技能の取得に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時の避難経路は全スタッフが把握できるように訓練を実施している。新型コロナウイルスが5類へ引き下げになった為、地域の消防団との訓練も実施していく予定。</p>	<p>年2回昼夜想定で避難訓練を実施し、1回は消防署の立ち合いを受けている。今後は地域の消防団に協力を働き掛ける予定である。避難場所は、道路向かいの社会福祉協議会となっている。非常用の備蓄は、1週間分以上の水・インスタントラーメン・レトルト食品・缶詰等の食料やカセットコンロを確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言動に注意して、人権の尊重とプライバシーを損ねないように接している。	研修を実施し、入室時やケア前の声掛け、ベッド上のオムツ交換時はドアを閉める、申し送りは利用者に聞こえないように配慮して事務所で実施する等、誇りやプライバシーを損ねないように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいように、分かりやすい表現で尋ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペース（余暇時間の活用方法）に合わせて、無理強いをしない支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご利用者自身に衣類を選んでいただくよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや野菜の皮むきなどを共に行っている。	献立は職員が作成し、畑や差入れの野菜を活用し個々に応じた食事形態で提供している。利用者も一緒に下ごしらえやテーブル拭きを行っている。季節の行事食や誕生日の好物等で楽しんでもらえるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ハンディーミキサーを利用して摂取しやすい食事を作っている。また、水分の管理も行っており、できるだけ飲んでいただくよう促し等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	臥床前の口腔ケアの促し、介助を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での排泄の促しや確認を行い、出来る限りトイレでの排泄ができるように、便座に座ってもらう機会を作っている。	日中は時間を見ながら声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄を基本に支援しており、リハビリパンツから布パンツへの改善例もある。排泄用品は個々に応じた適切なものを選択し、夜間のみポータブルトイレやオムツを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫（農家からお芋を購入）等を行っている。また、主治医の管理のもと、排便コントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1人週3回、決められた曜日、時間に入浴を実施している。入浴時は身体機能に応じた介助を実施している。	週3回午後に入浴を実施しており、低刺激性のボディシャンプーや必要に応じて保湿剤も使用している。嫌がる場合、声掛けを工夫して清潔保持の為に入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、休息できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服の情報はケースファイルに綴じてあり、いつでも確認ができるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みなどに応じ、その時々支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご利用者の希望時や状況を見極めながら支援するように努めている。</p>	<p>日常的には玄関先での外気浴や日光浴を行って、できるだけ戸外に出るよう働きかけている。季節の花見のドライブや家族の協力での外出・外食・外泊をしている利用者もあり、今後は計画を立てて外出支援に取り組む予定である。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金は市越で管理し、各個人希望時にお金を所持し、使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個々の希望時に電話を使用し、楽しみを持って話ができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間や各居室に窓があり、外が見える環境にある。季節感を感じて生活が送れるようになっている。</p>	<p>ホールはエアコンや加湿器で適度な室内環境に調節し、換気は窓を開けて十分行っている。花や作品を飾って季節を感じてもらえるように努め、ソファや畳スペース、ウッドデッキ等の好みの場所でくつろげるように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにソファ2台設置。玄関に椅子設置してあり、独りになれる環境にある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真や個人で使用していた物品などを持参していただき、本人にとって心地よく過ごしやすい環境を作れるように努めている。</p>	<p>居室には、ベッドやタンス・押し入れが備えてあり、洗面台のあるユニットもある。本人はテレビや机・ハンガーラック・寝具を持ち込んだり、写真や位牌等を身近に置いて安心して過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の方の身体状態に応じて、歩行器、車イス、リクライニング車椅子を使用いただいている。トイレの表示も分かりやすい表示ができています。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない